

茨城県図画工作・美術教育研究部研究調査委員会 授業実践研究報告（令和元年8月）

研究テーマ	「人」「もの」「こと」をつなぐことで、生徒一人一人が豊かに発想し構想を練 POSSIBILITY することができる学習展開の工夫 －中学校第3学年「光と影の空間演出」の実践を通して－
-------	--

那珂市立第一中学校 教諭

I □研究テーマについて

中学校学習指導要領（平成29年度告示）美術編第2学年及び3学年の目標と内容1「目標」（2）では、「自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。」と示されている。

「目標」（2）の達成・実現に向けて、「人」「もの」「こと」とのつながりを重視した授業展開を実践することとした。自己の美的関心や生活環境、他者との関わり等から主題設定することや、生徒の表現意図を具体化するために、多様な技法や材料、映像や具体物などの鑑賞資料、相互鑑賞などの言語活動とつなぐことで、「生徒一人一人が豊かに発想し構想を練ることができる」学習活動が展開できるのでは無いかと考えて研究主題とした。

II □研究の実際

□ 1 □題材名 「光と影の空間演出」

□ 2 □題材の目標

- 光と影による効果や表現に関心をもち、主体的に創造的な工夫をして表したり、表現の工夫などを感じ取ったりしようとしている。 (美術への関心・意欲・態度)
- 空間を美しく演出するために、形や色彩、材料や光などの組み合わせを工夫しながら構成や装飾を考え、表現の構想を練っている。 (発想や構想の能力)
- 表現意図に合わせて、材料や用具などの特性を効果的に生かして創造的に表現している。 (創造的な技能)
- 目的や条件などを基に演出された空間の美しさや作者の意図を感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。 (鑑賞の能力)

□ 3 □題材について

□□(1) □児童（生徒）の実態

質問1 作品制作で「うまくいかない」「困った」と感じるのはどのようなときですか？（複数回答可）	
作品のアイデアが浮かばない・・・94人	思うように表現できない・・・63人
どのように技法を活用すればよいか分から・・・39人	
質問したり、調べたりすることができない・・・18人	用具の使い方が分から・・・5人
制作の見通しが分から・・・3人	特に困らない・・・2人
質問2 作品制作や鑑賞学習でつまずいた時、ヒントとなるのはどのようなことですか？（複数回答可）	
教師からの助言を参考にする・・・77人	友人の作品や参考作品を参考にする・・・71人
友人からの助言を参考にする・・・57人	教科書や資料集などの図書を参考にする・・・55人
インターネットや図書で調べる・・・40人	自分の知識や経験から工夫する・・・38人

資料1 【実態調査】（3学年121人調べ 平成30年11月実施）

本学年の生徒は、表現や鑑賞に対して強い関心をもつ生徒が多い。そのため、全体的に、独自のイメージをもって作品の発想・構想に取り組み、幅広い技法に挑戦しようという雰

囲気が生み出されている。実態調査では、これまでの美術科の学習において、生徒がつまずきを感じたことについて焦点化してアンケート調査を実施した（資料1）。質問1では、121人中、94人の生徒が「作品のアイデアが浮かばない」ことにつまずきを感じていることが分かった。発想・構想段階において、自分の感じ取ったことや考えたことをどのように作品として表現すればよいか、苦労して思案している様子がうかがえる。また、「どのように技法を活用すればよいか分からぬ」は、生徒にとって、取り扱う素材や技法などが初めて出会うものあれば、扱うことの難しさや、表現と結びつけられないといった困り感を発想・構想段階でもっていると考えられる。

質問2では、質問1で回答のあったつまずきに対して、どのような手段からヒントを得て構想を練っているのかを確認した。「教師からの助言を参考にする」が77人と最も多い。普段授業の中で、生徒から質問を受けたり、助言を求められたりした場合に、技法や資料、友人の対話につなぐよう心がけているが、生徒は自分なりの表し方を模索するのではなく、教師から直接よい表し方を教えてもらおうとする意識が働いている可能性がある。次点は「友人の作品や参考作品を参考にする」の71人であり、美術室内に写真資料や図鑑、画集、絵本などを常備していることや、少人数グループの学習形態での活動が多いため、生徒同士が自然に互いの作品やワークシートを目でできることから回答数が多いと考えられる。

一方で、少人数グループの学習形態を多く取り入れている中にあって、「友達の意見を参考にする」が50%であるため、グループ学習を展開する中で、さらに積極的に友達に聞いていたり、考えを伝え合ったりする場の設定や、生徒同士をつなぐことに関する改善していく必要性を感じた。

□□(2) □題材観

身近な生活の中で、光と影が織りなす美しい光景に出会う様々な場面に出会うことがある。光源には人工的なものと自然光によるものがあるが、光らせる場所やもの、光の当たり方などで様々に表情を変え、多様な美しさをわたしたちに与えてくれる。さらに、テーマパーク等のイベント、コンピューターグラフィックスの映像など、現代社会において光や影を利用したアートにも触れる機会が増えている。小学校の図画工作科では、色水や色セロファンなどに自然光を通した工作や造形遊びなどの題材が教科書に掲載されおり、継続的に光を生かした表現に関わってきている。

本題材は、LEDライトを光源とし、光の効果や装飾を生かして立体に表す学習活動である。光の効果を用いることを条件としながら自分の生活、社会、他者との関わりなどから主題を設定し、機能性や美しさを表現する作品制作を通して、目標（2）を達成するために設定したものである。

□□(3) □指導観

研究テーマのねらいを達成するために、本題材では作品テーマに対するイメージを喚起したり、発想・構想を深めることができるよう、鑑賞と表現を関連させながら授業を展開することとした。参考作品や鑑賞資料、友達の作品に触れる機会を増やすことで、一人の知識や思考を越えて新たな表し方に出会うことができると考えられる。鑑賞資料として映像や照明器具等の実物、参考作品などの資料を幅広く提示することで、作品制作のみならず、光の生かし方や楽しみ方など、実生活を豊かにする力を付けることにもつなげていきたい。

言語活動の活用として、生徒の学習状況から判断して、必要に応じた相互鑑賞や考

を伝え合う場を設定することで、生徒がつまずきを解消したり、他者理解や自己肯定を向上させられるようにしたい。また、既習事項を含め幅広く技法や材料を活用できるよう、材料コーナーを設け、生徒が自由に活用できるようにした。

これらの「人」「もの」「こと」とのつながりを重視した授業展開を実践することで、生徒一人一人が豊かに発想・構想を練ることができる学習展開の工夫をしたい。

□ 4 □題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
□光と影による効果や表現に关心をもち、主体的に創造的な工夫をして表したり、表現の工夫などを感じ取ったりしようとしている。	空間を楽しく効果的に演出する目的や方法、見る人の気持ちなどを基に、形や色彩、光などの組み合わせなどを工夫して構成や装飾を考え、表現の構想を練ることができる。	材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして、形成や着彩の順序などを総合的に考えながら、創造的に表現しすることができます。	目的や条件などを基に演出された空間の調和のとれた美しさ、つくり手の意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。

5 □指導と評価の計画（9時間扱い）

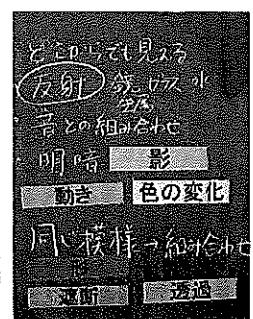
時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	人工的な光源や、光を使ったアートを鑑賞し、光の生かし方や材料などについて考える。	・目的や条件などを基に演出された空間の美しさや作者の意図を感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。 【観察・ワークシート】
第2次 ②	LEDライトを使った作品の構想を練る。	・空間を楽しく効果的に演出する目的や方法、見る人の気持ちなどを基に、形や色彩、光などの組み合わせを工夫して構成や装飾を考え、表現の構想を練ることができます。 【観察・ワークシート】
第3次 ⑤	LEDライトを使った作品を制作する。	・材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして形成や着彩の順序などを総合的に考えながら、創造的に表現しすることができます。 【観察・作品】 ・目的や条件などを基に演出された空間の調和のとれた美しさ、つくり手の意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができます。 【観察・ワークシート】
第4次 ①	作品の鑑賞会を行う。	・目的や条件などを基に演出された空間の調和のとれた美しさ、つくり手の意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができます。 【観察・ワークシート】

□ 6 □指導の実際

① 第1次 光のアート・グッズ鑑賞

本題材の導入として、光を生かしたイベント（「花火大会」、「プロジェクションマッピング」、「イルミネーション」）の映像による鑑賞学習を行った。映像を鑑賞するに当たり、鑑賞の視点を示し、視点を基に気付いたことや感じたことをワークシートに記入させた。

また、身近に手に入るLEDライトやケミカルライト、ろうそくをなどを使った様々な「光るグッズ」に触れる時間を取り、その後、光りを生かしたグッズやイベント、日用品などのアイデアスケッチを描く学習を行うことで、「透過」「遮断」「反射」「色の変化」「影」といった光の効果や表し方について共有化し、イメージを喚起させた。



資料2 鑑賞学習の様子

資料3 鑑賞学習ワークシートから

「光のどのようなところに美しさを感じましたか」

- ・大きく光が広がっていくところ。 ・様々な色の光が重なっているところ。
- ・光の出し方で動きが表現できる。 ・光をぼかしたり、点で強く光ったりするところ。
- ・不規則な光り方がある。 ・光で模様を作っている。
- ・暗い中に光があることで強調できる。 ・水面に反射させて光が映っている様子。
- ・人工的な光で、現実的ではない別世界のイメージを表現できる。
- ・明るいところと暗いところの対比が美しい。 ・色の組み合わせや形などのデザインが美しい。

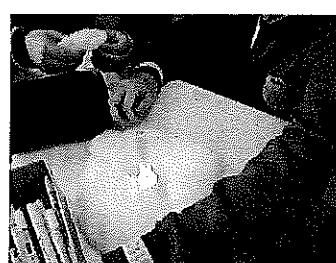
「光を美しく見せるために、どのような工夫がされていますか」

- ・光の形や色をたくさん使っている。 ・光の色の組み合わせや代わり方が工夫されている
- ・点滅させて動きを出している。 ・表現にストーリー性が持たせていた。
- ・音楽と合わせることで幻想的な雰囲気を出せる。 ・水と組み合わせて、反射を生かしていた。
- ・音楽のテンポや曲調に合わせて光方も変化させている。 ・自然と組み合わせている。
- ・幾何学模様を組み合わせて美しく見せていた。 ・本体の形に合わせて光がデザインされていた。
- ・鏡、ガラス、金属など反射する素材と組み合わせる。

② 第2次 発想・構想段階

第1次で学んだことを生かして、「誰が」「どこで」「どのように」使うものになるか問い合わせながら、作品の主題設定を考えるよう指導した。

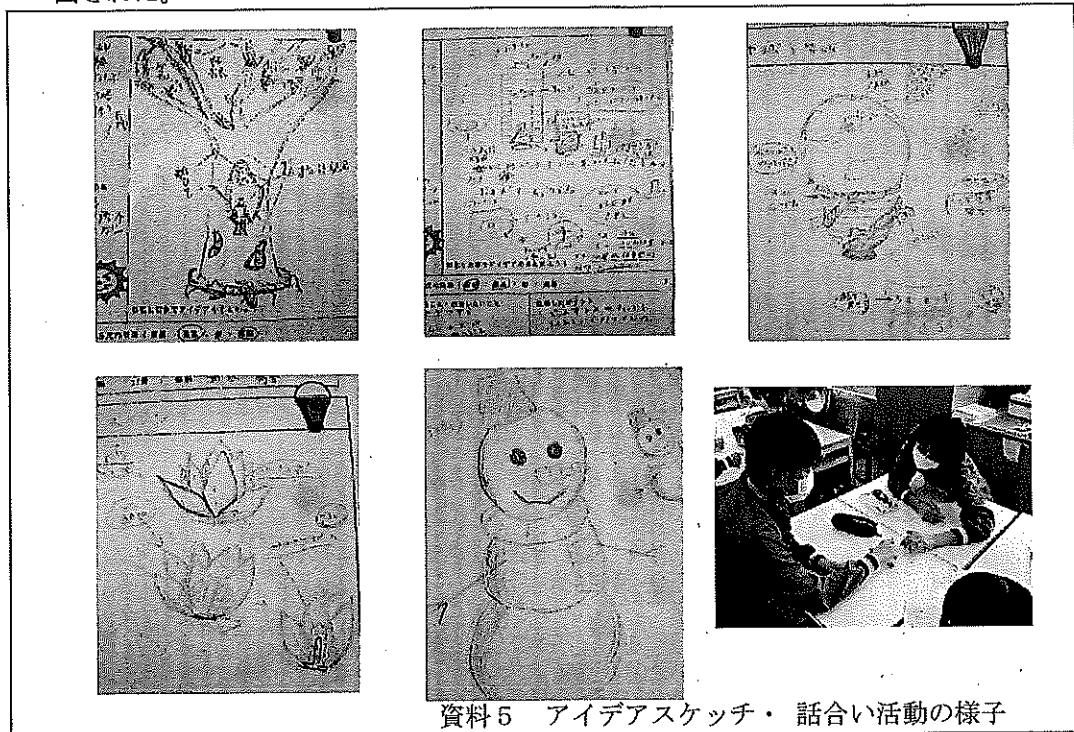
準備しておいた材料や用具、LEDライト等には自由に触れてよいことを伝え、実際に光らせてみたり、試作させることで発想をふくらませることができた。これまでの学習においても自分で主題や作品のアイデアを考えることが困難な生徒も、ライトやその他の材料の具体物に触ることで、「どのような材料でどのように光らせるか」についてイメージが喚起され、そこから作品の形や主題が後から決まっていった生徒も見られた。



資料4 様々な材料で光らせ方や作り方を試行する様子

また、話合い活動では、自分で考えたアイデアについて説明したり、分からぬことにについて助言し合ったりする場面を設定し、生徒同士をつなぎながら学習に取り組ませた。鑑賞で学んだ光の効果や材料を基にしながら話し合うことで、表現意図に対して具体的に話し合う姿が見られた。また生徒の話合いから生まれたアイデアとして、複数の生徒の作品を同じ空間に並べること共同作品や、家から材料やライトを持ってくることなどが提案された。生徒はアイデasketchの内容や話合い活動から、さらにどのように用具や材料の準備を進めたらよいかや、自分が考えた作り方の計画に無理が無いか確かめることができていた。

生徒はLEDライトを使った作品制作であるため、夜間や暗いスペースでの使用を想像しながらアイデasketchを進めた。部屋や庭に飾る家庭での活用、クリスマスやテーマパーク、店頭などのイベントや飾り、自然環境でのライトアップなど、多様なアイデアが出された。



資料5 アイデasketch・話合い活動の様子

③ 第3次 作品制作段階

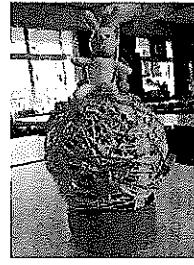
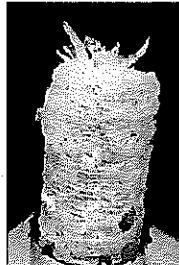
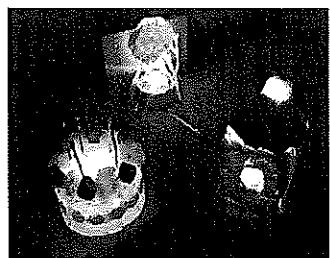
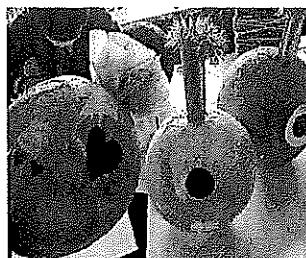
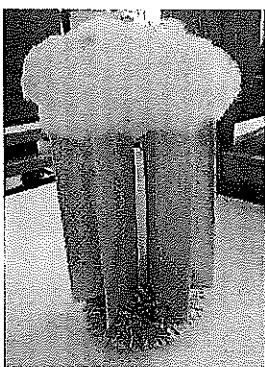
アイデasketchを基に制作を行った。制作途中で材料や形などの変更があった生徒には、その都度アイデasketchにも変更を書き加えるよう指導した。様々な材料を使用するため、必要に応じて使い分けられるよう接着剤やテープ類を複数用意した。



資料6 創作の様子

和紙による張り子をベースに作品作りをする生徒が割合としては多く見られたが、自分の表現意図に合わせて和紙の色の組み合わせや大きさ、飾りや切り方などを工夫していた。また、アイデasketchに詳しく材料や作り方まで書き込んでいたため、多少の変更があった生徒はいたものの、スムーズに制作が進んだ。

資料7 生徒作品



III □ 研究の成果と課題

□ 1 □ 成果

質問1 作品制作で「うまくいかない」「困った」と感じるのはどのようなときですか？（複数回答可）

作品のアイデアが浮かばない・・・59人 思うように表現できない・・・23人

どのように技法を活用すればよいか分からない・・・49人

質問したり、調べたりすることができない・・・4人 用具の使い方が分からない・・・1人

制作の見通しが分からぬ・・・15人 特に困らない・・・17人

質問2 作品制作や鑑賞学習でつまずいた時、ヒントとなるのはどのようなことですか？（複数回答可）

教師からの助言を参考にする・・・61人 友人の作品や参考作品を参考にする・・・75人

友人からの助言を参考にする・・・68人 教科書や資料集などの図書を参考にする・・・45人

インターネットや図書で調べる・・・23人 自分の知識や経験から工夫する・・・43人

資料8 【実態調査】（3学年126人調べ 平成31年2月実施）

□ □ □ 授業実践後の実態調査では、質問1「作品のアイデアが浮かばない」、「思うように表現できない」、「質問したり、調べたりすることができない」と回答した生徒が大幅に減少した。また、質問2「教師からの助言を参考にする」との回答が減少し、「友人からの助言を参考にする」が増加したことから、生徒同士が思考を交流させる場の設定および、制作事前の鑑賞学習が発想・構想段階でのつまづきを解消することに有効であったと考えられる。また、技能面で課題のある生徒も、自分の発想のよさを友達に認めもらえる場面や、制作段階において工具の扱いをサポートしてもらえたことが、多様で自由な表現をする源になったと考えられる。

□ 2 □ 課題

□ □ □ 質問1「作品のアイデアが浮かばない」、「思うように表現できない」は、回答した生徒は減少したものの、作品のアイデアを全く出すことができなかつた生徒はいなかつたことから、自分の表現に満足できない生徒が多数いると考えられる。少ない授業時数に追われ制作を急ぐ場面があつたことは否めず、基本的なことであるが、毎時間一人一人が学習目標を設定し、授業の振り返り、次時のめあてづくりをする時間を確実に確保し、よりよい表現を追求する学習展開をしなければならない。

※参考資料 中学校学習指導要領（平成29年度告示）美術編